

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:2022年12月29日

回収率22/33 66.67%

事業所名:すまいる・きつず曾根

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	利用定員は10名です。療育室では、個別活動や集団活動(ボウリング遊び・音楽体操&リラクゼーション・楽器遊び・体幹遊び・ドイツゲーム等)を実施し、活動に応じてスペースを確保し取り組んでいます。学習室では、静かで落ち着いた環境の中取り組めるようにしています。	・体を動かす活動は難しいのではと思う利用する児童・職員の数を考えると少し狭いのでは…? ・充分だと思います はい…72.73% どちらともいえない…18.18% わからない…9.09%	児童の身辺自立の向上を目指すため、導線を考えながら配置を変更致しました。配置変更に伴い、療育室のスペースを確保する為、折り畳み式の机を導入し、活動時以外は片付けることでスペースを確保しています。感染対策として、パーテーションの利用・ソーシャルディスタンスを確保・換気をしながら日々の活動を実施しています。
	2 職員の適切な配置	基準を守るよう配置し、職員の立ち位置などを配慮しながら安全に過ごせるようにしています。	はい…95.45% わからない…4.56%	児童の人数に合わせた配置や、状態に合わせて職員の立ち位置を考えながら対応しています。また、きめ細やかな支援がある児童には、マンツーマンで対応しています。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	玄関以外の室内はバリアフリー化出来ています。室内は、上備している物品を最小限に抑え、シンプルにしています。環境整備は、個々の児童に合わせて、個人スケジュールボードを準備・視覚支援カードを使用することで児童がスムーズに行動出来るようにしています。	・一般の住宅なので、どうでしょう。家庭で過ごすような環境ではあると思いますが、障害児施設と比べると微妙 はい…86.36% いいえ…4.55% いいえ…4.55%	安心して通所し過ごせるよう、継続して環境整備を行っていきます。また、必要に応じて職員で相談しながら、改善策を考えていきます。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	環境整備については、業務チェックリストや、消毒のチェックリストを活用し、漏れがないようにし、児童の退所後・来所前の消毒・清掃に努めています。送迎車についても、出来るだけ乗車人数を少なくし、換気を行い、マスク着用を徹底し、使用後は消毒・清掃を徹底しています。	掃除や整理整頓はきちんとされていると思います はい…95.45% わからない…4.55%	今後もチェックリストを活用しながら、環境整備・感染症対策を徹底して行い、心地よく過ごせるようにしていきます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	児童受け入れ前の打ち合わせや、退所後の振り返りを実施しています。日々意見交換を行い、職員同士の連携をとっています。また、月1のスタッフ会議を実施し、職員が話しやすい雰囲気を作り、意見を行っています。		意見を出しやすい雰囲気を作りながら、意見交換を行い質があがるよう取り組んで参ります。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者評価機構による評価を受け、評価内容についてはセミナーを開催しました。評価内容と県による実施指導の内容を全職員で確認しながら、業務改善につなげていきます。		今後も定期的に外部評価を受け、業務改善を実施していきます。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	内部・外部問わず積極的に研修に参加しています。職員全員が強度行動障害支援の資格を持ち、新しい職員にも推奨して参加してもらっています。		内外問わずに、研修に参加し資質向上に向け努力していきます。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	定期的にケース会議等で児童の課題分析を行っています。		今後も丁寧にアセスメントを丁寧にを行い、モニタリングを繰り返し実施することで、児童・保護者のニーズを確認しながら課題分析し、放課後等デイサービス計画を作成していきます。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	具体的な目標に、児童の状況に応じた個別・集団活動を組み合わせ合わせた内容を放課後等デイサービス計画に盛り込み、支援を実施しています。	はい…95.45% どちらともいえない…4.55%	今後も児童の状況に応じ、個別活動・集団活動を組み合わせ合わせた内容の放課後等デイサービス計画を作成していきます。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	発達支援・家族支援・地域連携支援などの大項目を決め、それぞれに具体的な支援目標を設定し、支援内容や留意点、支援期間などを記載しています。		今後も継続して具体的な目標、支援内容や留意点、支援期間などを記載し、放課後等デイサービス計画を作成していきます。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援が出来るよう、保護者に同意を頂き次第、計画内容を全職員に周知するようにしています。また、計画内容を個別記録表(フローシート)にも記載し、日々内容を確認し適切な支援が出来るようにしています。	はい…95.45% どちらともいえない…4.55%	今後も放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援を実施していきます。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	活動プログラムについては、年間計画を作成し、毎月のスタッフ会議においてチーム全体で詳細を立案しています。その後、それぞれの活動計画書を作成し、実施後は実施結果や改善点を報告書に記載しています。		今後も継続してチーム全体で様々な活動プログラムを立案していきます。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日、休日、長期休暇ではサービス提供時間が異なりますので、児童の目標にも合わせながら活動プログラムを立案しています。また、休日や長期休暇については、体験活動も多く取り入れ、集団で様々な経験を重ねることで成長に繋がるよう支援しています。		今後も児童それぞれの目標を鑑み、平日、休日、長期休暇の活動時間を活かしたプログラムを立案し支援していきます。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	制作・訓練・学習だけでなく、音楽体操・リミック・ボウリング・サーキット遊び・ラジオ体操・散歩などの身体活動を取り入れています。また、SSTIに繋がるドイツゲームなども取り入れています。その他、月2回音楽療法などの外部講師ご指導して頂いております。	工夫されていると思います 音楽療法は先生も内容も素晴らしいと感じています はい…95.45% どちらともいえない…4.55%	プログラムが固定化しないよう、継続して様々なプログラムを取り入れていきます。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援開始までに職員全員でミーティングを行っています。各プログラムの内容・支援目標・担当者等を決め、児童を受け入れる準備を行っています。その際、当日利用児童の支援内容や連絡事項なども共有するようにしています。		今後も継続して取り組んでいきます。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
こ	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化		今後も職員間で情報共有出来るよう、継続して取り組んでいきます。	
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施		今後も継続して支援の検証や改善を実施してまいります。	
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し		今後も継続して放課後等デイサービス計画の見直しを定期的に行ってまいります。また、期間内でも、ご本人の状況に変化があり支援内容の変更が必要な場合には随時見直してまいります。	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画		今後も保護者・学校・相談支援専門員・関連事業所などと連携し統一した支援が行えるよう積極的に参加させて頂いております。基本的には児童発達支援管理責任者が出席しておりますが、必要に応じ直接支援している職員も同行しております。	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間の支援内容等の十分な情報共有	現在は児童発達支援事業は休止中のため行っておりません。		
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現在は行っておりません。(対象児童不在のため)		
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	兵庫県立こども発達支援センター令和4年度基礎研修及びスキルアップ研修に2名参加。児童発達支援管理責任者基礎研修1名受講。強度行動障害基礎研修及び実践研修1名受講しました。		
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	現在は、放課後児童クラブや児童館との交流は実施出来ていません。	はい…22.73% どちらともいえない…13.64% いいえ…13.64% 回答なし…9.09% 放デイで他社との交流は必要だと思いますので現状のままで結構です 同じグループ同士での活動はあるのは理解している。障害のない子どもとの活動は知らない。	児童・保護者のニーズを考慮し、検討していきます。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	自治会に入会し、事業所についてのご理解を頂くとともに、災害時の連携をお願いしております。また地域への発信として、ユアイ帆つとセンター等に児童の作品展示をしていただいております。		今後も地域に開かれた事業所運営を行うため、コロナ等の感染状況を鑑み、地域住民の招待などを検討していきます。
保護者への説明責	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明		はい…100% 十分に説明していただきました	今後も継続して丁寧に取り組んでいきます。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明		はい…100% 十分に説明していただきました	今後も継続して丁寧に取り組んでいきます。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	面談・電話・連絡帳を通して、具体的な対応方法や子育てについての助言をさせて頂いております。また今年度より保護者会に講師を招く等、学習会を実施しております。	はい…68.18% どちらともいえない…13.64% いいえ…9.09% わからない…9.09%	今後も継続して実施してまいります。また学習会も計画し、保護者も職員ともにスキルアップし児童を支える力を身につけていけるよう実施してまいります。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	日々の児童の状況や課題については、連絡帳や送迎時にお伝えしています。また、必要時には電話や面談の機会を持ち、共通理解出来るようにしています。	はい…95.45% どちらともいえない…4.55%	今後も継続して保護者と共通理解出来るよう取り組んでまいります。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	定期的な面談だけでなく、随時ご相談には対応し、保護者の思いに寄り添うようにしております。また、必要な時には、学校や相談支援専門員、関連事業所と連携し対応出来るようにしております。	はい…95.45% どちらともいえない…4.55%	今後も継続して保護者の思いに寄り添いながら継続して支援してまいります。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
・連携支援	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	本年度はコロナ禍ということもあり、感染対策を実施しながら保護者会及び勉強会を7月2日に開催いたしました。卒業後の子供たちの進路についての勉強を通して保護者の皆さんの意見を交換することが出来ました。また各事業所の作品を展示することで、事業所での様子を伝えることも出来ました。今年度は学習会を実施し事業所単体での交流会が出来ませんでした。	はい…68.18% どちらともいえない…13.64% 勉強会ついでに保護者があれば参加しやすい。 いいえ…9.09% わからない…9.09%	今後は新型コロナ感染状況を鑑みながら、保護者同士の連携が深められるよう、開催方法を模索し継続していきます。	
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情・相談マニュアルに沿って、迅速かつ適切に対応出来るようにしています。利用契約時には、本所の窓口だけでなく、行政機関を含めた苦情窓口もご案内するようにしております。	いいえ…4.55% どちらともいえない…27.27% 苦情を出したことがないのでわかりません	今後も対応体制を整備し、契約時だけでなく保護者会等で周知出来るようにしていきます。	
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	言葉掛けだけでなく、視覚支援カードや筆談、マクソンサインや手話等を使用し、意思疎通や伝達を行っております。保護者への連絡は、日々の連絡帳やお便り等の文書、電話などで伝達しております。	はい…86.36% どちらともいえない…9.09% わからない…4.55% 管理者とスタッフの伝達(行動支援)が上手く出来て来てない時もある。(スタッフのから)	今後も継続して取り組んでいきます。また、将来的にはICT化も視野に入れ検討していきます。	
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	月1回お便りを発行し、文章のみならず写真を盛り込んだ形で活動内容の報告や、今後の行事予定、事務連絡等を掲載しております。	はい…86.36% どちらともいえない…4.55% わからない…9.09%	今後も継続して取り組んでいきます。また、将来的にはICT化も視野に入れ検討していきます。	
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	保護者向けには契約時に個人情報の取り扱いについて説明し、使用同意書を頂いております。また写真の取り扱いについても、事前に同意を頂くようにしています。職員についても個人情報保護についての認識を確認し、日々厳重に取り扱っています。	はい…90.90% わからない…9.10% 充分注意されています	今後も十分に配慮し、厳重に取り扱っていきます。	
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルは策定し、委員会を発足して、研修会を実施し周知徹底しております。保護者への周知につきましては、緊急対応マニュアルとして様々なマニュアルの内容を網羅したものを作成し、全てのご家庭に配布させて頂いております。	・はい…95.45% ・…4.55%	・どちらともいえない	今後も継続して周知徹底に取り組んでいきます。また、社会情勢に応じ都度マニュアルを見直し、周知出来るよう取り組んでいきます。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	様々な災害を想定し、年5回以上避難訓練(水害・火災・地震・防犯など)を実施しています。また、指定避難所への訓練も行い、実際に足を運び避難経路の確認等を行っております。職員については、加古川防災センターにて救命講習を受けるなど対応力の強化に取り組んでいます。	・はい…90.09% ・…9.01%	・どちらともいえない	今後も様々な災害に対応出来るよう、多様な災害を想定し訓練を実施していきます。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止委員会を設置し虐待防止研修を社内での実施し、社外の虐待防止研修にも積極的に参加しています。また、虐待防止チェックリストを記入したり、日々の打ち合わせや振り返り、スタッフ会議などで虐待について話し合う機会を持つようにしています。			今後も継続して虐待防止研修を実施・参加し、全職員で意識をもって適切な対応が出来るよう取り組んでいきます。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	ケース会議等で事例を検討し、やむを得ず身体拘束を行う際には、保護者に十分に説明し了解を得た上で放課後等デイサービス計画に記載するようにしています。			今後も身体拘束が必要かどうか慎重に支援方法等を検討・見直ししながら丁寧に取り組んでいきます。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	契約時のアセスメントや放課後等デイサービス計画の面談時に、アレルギーの有無や対応方法を確認しています。その後、個別の緊急対応マニュアルを作成し、保護者確認のうえ職員に周知徹底しております。エビベン持参の児童は、必ず通所時にエビベンの確認を行っております。			今後も保護者と情報共有しながら、個別の緊急対応マニュアルを更新するなど、安心して通所出来るよう対応していきます。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例があった時には、日々の振り返りで職員全体で把握・分析し、改善策を考えるようにしています。また事例集を作成し、社内3事業所合同で研修会を実施し、日々の支援に活かしています。			今後も安心安全に通所出来るよう、ヒヤリハット集を更新し取り組んでいきます。
7 こどもは通所を楽しみにしているか	放課後を楽しく過ごし「できた」経験を増やしていくようプログラムを工夫しています。日常生活動作・制作・学習・訓練で技術的に「できた」だけでなく、他児や指導員との関わりの中で「気持ちの切り替えができた」「相手を思いやることができた」「意思を伝えることができた」など、子ども達は日々成長を見せています。	はい…86.36% どちらともいえない…13.64% 行けば楽しいようです 楽しんでいます 宿題してきてくれるのは助かっています		今後も活動プログラムを工夫し、楽しい放課後を過ごし様々な経験を重ねることで「できた」を少しずつ増やしていけるよう支援していきます。	
8 事業の支援に満足しているか	ケース会議だけでなく、支援前の打ち合わせや支援後の振り返りを積み重ね、児童一人ひとりの成長や課題を分析し、理解を深められるようにしています。また些細なことでも、児童に変化が見られる時には、連絡帳や電話、送迎時に保護者にお伝えし情報共有出来るようにしています。	はい…90.90% わからない…9.10% 安心してお任せすることができます。ありがとうございます。 夏休み中に色々な場所に連れて行ってもらえて良かったです。 満足しています 送りが負担 学校を卒業を見据えての訓練をしてくださる等とても助かっています		今後も児童一人ひとりに寄り添い、それぞれの成長に繋げられるよう継続して支援していきます。また保護者と情報共有し、安心して事業所利用して頂けるように事業所運営を実施していきます。	